

連載 ギラヴァンツは北九州に何をもたらすのかー第8回ー ギラヴァンツ北九州に対する市民意識

北九州市立大学都市政策研究所准教授 南 博

1. はじめに

この2013年9月号の原稿の締切日は、発行の約3ヵ月前の6月中旬だ。おそらく発行される頃には、ギラヴァンツ北九州に関連する1つの大きな動きが、一定の決着を迎えているものと思われる。その動きとは、本連載の第4回などで取り上げた「北九州市の（仮称）新球技場整備事業」である。当該事業についての2段階目の「北九州市公共事業評価に関する検討会議」が2013年2～4月に開催され、「事業を実施することについて、全ての構成員が異論なし」との結論となった。その結論を踏まえて、北九州市では公共事業評価の結果等に対する市民意見募集を2013年5月下旬まで実施し、294人から572件の意見が出されたところである。筆者は2013年6月3日に開催された北九州市議会総務財政委員会を傍聴したが、そこでも当該事業について活発な質疑が行われた。市執行部は、市民意見募集結果と市議会6月定例会での質疑を踏まえ、6月定例会後に市長が意見表明を行うと説明している。2016年度末の供用開始というスケジュールを見据えると、この原稿が発行される頃には意見表明が済んでいる可能性が高いと筆者は考える。はたして、どのような結論だろうか。この件については、結論を踏まえて改めて本連載の中で取り上げていきたい。

一方、同様に気がかりなのはギラヴァンツ北九州の戦績と集客状況だ。6月8日時点で、今季リーグ戦全42試合中18試合を終え、戦績は22クラブ中20位。1試合当たり平均入場者数は最下位に沈んでいる。しかしながら、戦績面では主力のFW池元友樹選手（北九州市出身）らがケガから復帰して以降、明らかにチーム状態は上向きであり、柱谷監督の戦術もチームに浸透してきた感がある。今後、勝点を重ねていってもらいたい。また、集客面でも、Jリーグ屈指の名門クラブ・ガンバ大阪を迎えた6月8日には7,207人が北九州市立本城陸上競技場に集まり、体感的には満席に近い状態となった。本連載の第7回で取り上げたようにサポーター有志による地道な集客活動も続いており、また、選手による小学校訪問などの事業も進んでいる。今後、こうした活動の成果が実を結んでくることを期待したい。

ただ、その集客に関して、今年3月に筆者が実施した市民意識調査においては気になる点もみられた。今回はその概要について紹介する。

2. 2013年シーズン当初のギラヴァンツに対する市民意識調査の概要

筆者の所属する北九州市立大学都市政策研究所では、毎年、本城でのスタジアム観戦者調査を実施するとともに、2010年、2012年、2013年の各シーズン開幕直前に北九州市民を対象と

表1 市民意識調査の実施概要

調査方法	インターネット調査
調査対象	北九州市に居住する18歳以上の市民のうち、(株) インテージが管理・利用する調査モニターへ登録している市民
実施期間	2013年3月25日(月)～3月27日(水)
有効回答数	1,468

(出所) 南(2013)(以下同じ)

したギラヴァンツ北九州に対する意識調査を実施している。前者(スタジアム観戦者調査)は、基本的にギラヴァンツにある程度関心をもち、実際にスタジアムを訪れている人に対する調査であり、後者(市民意識調査)はギラヴァンツに関心のない人も含めた調査である。ギラヴァンツへの市民の関心の把握や、関連する政策の検討に際しては、この双方を総合的に考察していくことが必要であると考え、継続的に取り組んできている。

このうち、2013年3月に実施した市民意識調査の実施概要を表1に示す。なお、学術研究におけるインターネット調査の有意性を巡っては様々な議論があり、品質を疑問視する意見も強い。特に、「登録されたモニターの回答は、調査対象とすべき母集団(本調査においては一般的な北九州市民)の意見を代表しているとは証明できない」という指摘には留意が必要である。本調査では、えられた結果が一般的な北九州市民の意見の傾向と一致することが証明されるものではない点に十分留意することを前提に、インターネット調査を手法として選択した。

なお、本調査の回答者の年齢・性別・居住区等の属性についてみると、年齢についてはインターネット調査の特性上、高齢者が少ない傾向にある等の特色はあるものの、全般的に分析を行う上で考慮すべき特異な偏りはなかった。

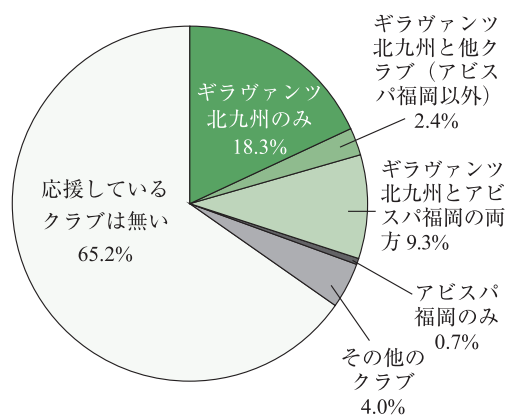
3. 市民意識調査の主な結果

3.1 Jリーグで応援しているクラブ

Jリーグで応援しているクラブを尋ねたところ、最も多いのは「応援しているクラブは無い」(65.2%)であった(図1)。回答者の大半はJリーグそのものに関心がない層ととらえることができる(注1)。

ギラヴァンツを応援している市民は、アビスパ福岡等の他クラブと併せて応援している人を含めると全体の30.0%となっている。Jリーグで応援しているクラブを持つ回答者のほとんどは、ギラヴァンツを応援していることとなる。なお、ギラヴァンツとアビスパの両方を応援している回答者も9.3%と比較的多い。これは、1996～2009年までの間、福岡県内のJリーグクラブはアビスパのみであり、その間にアビスパが北九州市内にも浸透していたことの現れと考えられる。

図1 Jリーグで応援しているクラブ



3.2 ギラヴァンツの認知度

ギラヴァンツの存在を認識している回答者は、全体の 89.4%であった。筆者が実施した 2010 年 2 月調査では 64.3%, 2012 年 2 月調査では 88.1%であり、Jリーグ加盟（2010 年）当初よりは大幅に認知度は向上しているものの、2012 年シーズンの活動では、浸透の進み方に大きな変化はなかったといえる。

3.3 ギラヴァンツの試合のスタジアム観戦経験

3.2 でギラヴァンツを認知しているとした回答者（1,320 サンプル）に対し、ギラヴァンツ（前身のニューウェーブ北九州時代を含む）の試合のスタジアムでの観戦経験を尋ねたところ、観戦経験者は 13.9%であった。これを全サンプル（ギラヴァンツを認知していない回答者を含む）を母数とした比率に置き換えると、12.5%となる。なお、本調査の回答者と実際の市民像を比較すると、高齢の回答者が少ない等の傾向があるため、実際の市民全体における観戦経験者の比率は、本調査の結果より低いと推測でき、10%を下回っているものと考ええる。

居住地ごとにみると、試合会場の市立本城陸上競技場に近い市西部エリアの方が、市東部エリアよりも観戦経験者の比率が高い傾向がみられる。

3.4 今後のギラヴァンツの試合のスタジアム観戦意向

回答者全員に対し、今後のギラヴァンツの試合のスタジアム観戦意向について尋ねた結果を図 2 に示す。2013 年調査においては「今のところ観戦するつもりはない」が 51.8%となっている。2012 年調査と比較し、「きっかけがあれば観戦するかもしれない」が大幅に減少し、一方で「今のところは観戦するつもりはない」が増加している。このことから、2012 年度中において、スタジアム観戦意欲が低下した市民が少なからず存在する可能性が指摘できる。Jリーグクラブライセンス制度を巡る諸問題（本連載の第 5 回で言及）や、ギラヴァンツの地域活動が十分浸透していないこと等が要因として考えられる。ギラヴァンツや、それを支える地域にとって、反省が必要な状態であり、集客戦略の立て直しが求められる。

ただ、2013 年調査結果について詳細にみると、「Jリーグで応援しているクラブは無い」（図 1 参照）と答えた回答者の中にも「ぜひ観戦したい」「きっかけがあれば観戦するかもしれない」が計 29%も存在している。また、スタジアムで観戦経験のない回答者の計 47%が、「ぜひ観戦」「きっかけがあれば観戦」と回答している。潜在的な観戦者は市内に多く存在しており、今後、効果的な方策を講じることにより、観戦者が増加していく可能性は大いにある。

図 2 今後のギラヴァンツの試合のスタジアム観戦意向の経年変化

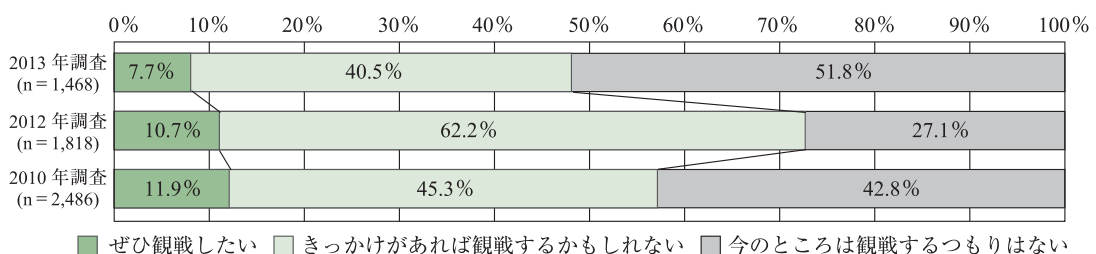
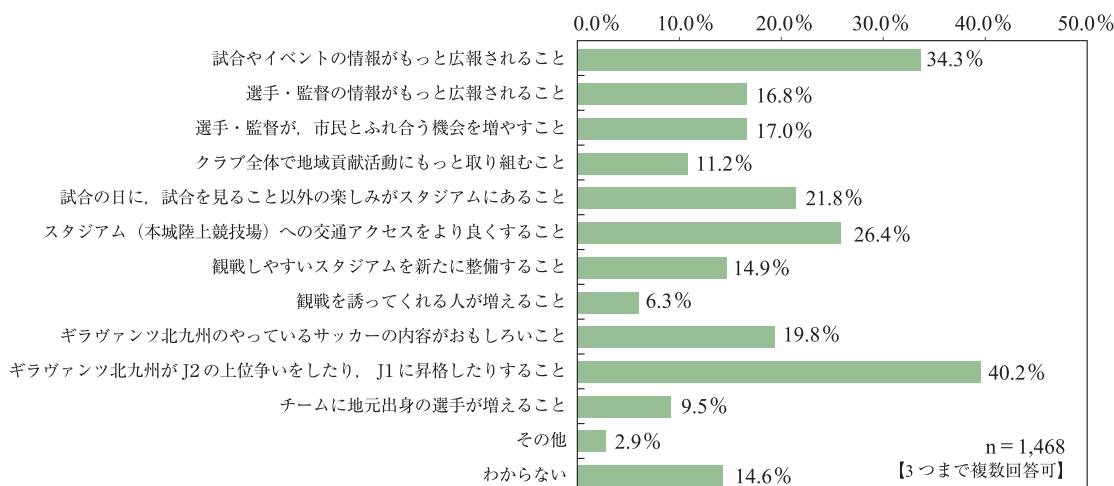


図3 ギラヴァンツ北九州の試合を観戦する人を増やすために必要だと考えること



3.5 「今のところはスタジアムで観戦するつもりはない」と考える理由

3.4で「今のところはスタジアムで観戦するつもりはない」と回答した761サンプルを対象に、その理由を尋ねた（3つまで複数回答可）。最も多いのは「サッカーに関心がないから」が63.7%で突出して多い。次いで多いのは「ギラヴァンツ北九州の選手のことをよく知らないから」21.7%、「スタジアム（本城陸上競技場）が不便だから」13.3%、「サッカーには関心があるが、J2には関心がないから」10.4%などとなっている。観戦者数の増加に向けては、こうした理由をそれぞれ効果的に克服し、観戦意欲を喚起する取り組みを行っていくことが必要である。

3.6 ギラヴァンツ北九州の試合を観戦する人を増やすために必要だと考えること

回答者全員に対し、ギラヴァンツ北九州の観戦者増加に向けて必要と考える事項を尋ねた結果を図3に示す。「ギラヴァンツがJ2の上位争いをしたり、J1に昇格したりすること」、「試合やイベントの情報がもっと広報されること」、「スタジアム（本城陸上競技場）への交通アクセスをより良くすること」などへの回答が多くなっている。

今回の市民意識調査では、ギラヴァンツの集客に関して、厳しい現実と明るい可能性が感じられる結果となった。筆者は引き続きこうした調査に取り組んでいきたいと考えている。

注

（注1）ただし、特定のJリーグクラブは応援していないなくても、欧州のサッカーには高い関心をもっている市民や、日本代表やその他のカテゴリーのサッカークラブを応援している市民もいると考えられる。

参考文献

南博（2013）「2013年シーズン当初のギラヴァンツ北九州に対する市民意識調査速報」、北九州市立大学都市政策研究所『北九州における「集客」の現状と課題』、pp. 29～38